

令和8年度 町長 施政方針

令和8年度奥出雲町議会定例会の
施政方針演説の内容を一部抜粋し
て掲載します。

予算の概要

令和8年度当初予算においては、私が掲げております「総力戦のまちづくり」として、

- 子育て・教育の充実と奥出雲を担う人づくり
 - 活力ある産業の振興
 - 安心して暮らせる生活基盤の確保とまちづくり
 - 奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり
- この4つのまちづくりを目標とした施策の推進を、引き続き図ってまいります。これにより一般会計は153億6千万円、対前年度比4億2千万円、2.7%の減となっております。

令和8年度当初予算主要事業

「子育て・教育の充実と奥出雲を担う人づくり」

◆子育て支援

新たに幼保連携型認定こども園「よこたこども園」を開設いたしますが、開園当初からの円滑な運営を支援するため「認定こども園開設事業」を実施してまいります。

また、統合により新設される仁多小学校の校舎内と現在の旧三成功幼稚園舎に、「こた放課後児童クラブ」を設置いたします。令和7年度から開設しております「よこた放課後児童クラブ」とともに、仁多・横田それぞれの地域において、児童の健全育成に取り組みます。

◆こども家庭センター事業

妊産婦、乳幼児等への支援を包括的に実施するため、こども家庭センターを設置しております。相談業務と併せ、妊産婦健康診査交通費助成や産後ケア事業などを実施しております。

令和8年度からは、センター事業を拡充し、一人5万円を助成する妊婦出産費用助成事業を実施いたします。

◆予防接種事業

小児期の予防接種につきまして、本町では、県内初となる母子手帳アプリ「母子七」を活用した予防接種記録のデジタル化を開始し、保護者や医療機関の負担軽減を図っています。

令和8年度からは、予防接種法の改正により、RS（アールエス）ウイルス母子免疫ワクチンが定期接種の該当となりますので、妊婦を対象とした定期接種を実施し、その接種費用を全額助成いたします。

◆小学校統合後の取り組み

本年4月から仁多小学校児童の多くがバス通学となることを踏まえ、バス乗車連絡アプリを導入します。保護者と学校との連絡など利便性を確保することで、保護者の安心、教職員の負担軽減に資するものと考えております。また、令和8年度に横田小学校・横田中学校区において、「コミュニティスクール（学校運営協議会）」を設置いたします。

義務教育9年間に加え、今後は横田高校の3年間を見通した「目指す子ども像」や「学校・地域のビジョン」を学校と地域が共有し、子どもたちの学びと育ちを地域全体で支える学校づくり、地域づくりを一体的に進めてまいります。併せて、地域学校協働本部を設置し、学習支援、体験活動、キャリア教育など、地域の特色を生かした取り組みを展開してまいります。

◆教育振興

更新時期を迎えております学校タブレット端末を更新し、小学校統合に向け整備しました電子黒板の活用と併せ、最新のGIGAスクール積極的な推進を図ってまいります。

令和8年度からは、スクールサポートスタッフを全ての学校に配置するほか、引き続き特別支援員、学びのサポーターの厚い配置により、先生方が子ども達に向き合える時間を増やし、教育の質を向上させるとともに教職員の働き方改革も推進してまいります。

また、「家庭学習支援塾」を新たに開設し、中学校の放課後の時間を活用して、生徒が主体的に学ぶことのできる学習環境を整え家庭学習の習慣化に

つなげてまいります。

◆学校教育環境の整備

仁多中学校、横田中学校の屋内運動場の空調整備工事を、令和8年度から実施し、生徒が快適な学びが出来るよう教育環境の向上を図ります。

◆学校給食

学校給食につきましては、小学校については、新たな国の給食費負担軽減交付金で不足する額の保護者負担は求めず町が補填することとし完全無償化を実施いたします。

中学校におきましても、食料費等の高騰により実質的には給食費が値上げとなりますが、差額を町が補填し現在の提供単価を維持してまいります。

◆おくいずも未来会議

2月15日には、「2026奥出雲の未来をつくる。私の挑戦提案」を主催し、奥出雲の新しい未来に向かって「自ら挑戦したいこと」「町へ提案したいこと」について発表をさせていただきました。また、昨年度に発表された挑戦提案につきましても、その後ラッシュアップを行い、挑戦1件、提案2件を事業化・実現することができました。

町といたしましては、これらの提案内容を関係各課で共有し、可能なものについては施策に反映していくとともに、新メンバーの募集も行い、次代を担う人材、そしてまちの核となる人材の育成につなげてまいります。

◆定住施策

「人と人のつながり」「町（まち）と人のつながり」をコンセプトに、令和8年度より新たに「絆コネクト事業」の実施や「地域活性化起業人制度」の活用により、奥出雲町へ帰って来たい、

移住し定住したいと考えている皆様とのつながり、を深める取り組みを促進し、UターンやIターンによる移住・定住の取り組みを進めてまいります。

◆住宅施策

子育て世代をはじめとする若い方々が、安心して暮らせる住環境の整備を進めるため、三成地内において世帯向けの定住賃貸住宅の整備に着手しておりますが、令和8年度は造成工事及び設計業務を進めてまいります。併せて、既存住宅の空き家対策のため、新規事業として住宅利活用検討事業を実施いたします。

「活力ある産業の振興」

◆農業振興

令和7年度よりスタートした「中山間地域等直接支払交付金」第6期対策は120協定が、新設されました「スマート農業加算」については38集落協定が取り組んでいただいております。今後も、加算の交付金を活用し、中山間地域での活用に適したスマート農業技術の前進な取り組みが一層進むよう情報収集や農家への情報提供を進めてまいります。

人口の減少や高齢化による担い手不足が深刻さを増し、全国的な課題となっております。担い手を確保するために引き続き、認定農業者の育成、集落営農組織の法人化を推進していくほか、就農希望者に対して、関係機関と連携しながら、就農者へのサポートや支援を引き続き取り組んでまいります。

併せて、地域おこし協力隊でも特に農の担い手となる人材の育成・確保を図ってまいります。

◆有害鳥獣対策

有害鳥獣捕獲対策事業に取り組み、

「子育て・教育の充実と奥出雲を担う人づくり」

◆子育て支援

新たに幼保連携型認定こども園「よこたこども園」を開設いたしますが、開園当初からの円滑な運営を支援するため「認定こども園開設事業」を実施してまいります。

また、統合により新設される仁多小学校の校舎内と現在の旧三成功幼稚園舎に、「こた放課後児童クラブ」を設置いたします。令和7年度から開設しております「よこた放課後児童クラブ」とともに、仁多・横田それぞれの地域において、児童の健全育成に取り組みます。

◆こども家庭センター事業

妊産婦、乳幼児等への支援を包括的に実施するため、こども家庭センターを設置しております。相談業務と併せ、妊産婦健康診査交通費助成や産後ケア事業などを実施しております。

令和8年度からは、センター事業を拡充し、一人5万円を助成する妊婦出産費用助成事業を実施いたします。

◆予防接種事業

小児期の予防接種につきまして、本町では、県内初となる母子手帳アプリ「母子七」を活用した予防接種記録のデジタル化を開始し、保護者や医療機関の負担軽減を図っています。

令和8年度からは、予防接種法の改正により、RS（アールエス）ウイルス母子免疫ワクチンが定期接種の該当となりますので、妊婦を対象とした定期接種を実施し、その接種費用を全額助成いたします。

捕獲器導入補助や町民の狩猟免許取得に要する経費の一部を助成してまいります。また、令和8年度は奥出雲町農業公社において、職員の狩猟免許の取得や専門的な知識・技術の習得を図り、被害防止対策の一翼を担うこととしております。

その他、有害鳥獣対策に有効な防護柵やICT機器の情報収集や実証等を実施してまいります。

◆農業基盤整備

地域内の農地の集積・集約を加速させ、担い手の育成・確保を図り魅力ある農地を維持するため、農地耕作条件改善事業による圃場整備を実施しておりますが、令和8年度は新規地区として大谷地区を加え、継続地区を含めて5地区で実施してまいります。

また、防災上のリスクとなる使われなくなった農業用ため池の廃止事業を継続して実施していくほか、貯水量の多いため池の改修等、防災・減災対策について引き続き県営事業の導入により進めてまいります。

◆畜産振興

奥出雲和牛の更なるブランド化に向けて、本町におきましては、引き続き、肉用牛優良繁殖素牛の保留及び導入対策を積極的に進め、繁殖基盤の強化を図るとともに、令和9年度に北海道で開催される第13回全国和牛能力共進会に向け、種牛性向上対策などに取り組みでまいります。

また、畜産農家の経営を圧迫している粗飼料価格高騰対策のため、国営開発農地を活用した粗飼料供給体制の確立により、少しでも安価な粗飼料が供給できるよう、引き続き農業公社とともに取り組んでまいります。

◆森林由来のJ-クレジットの発行

昨年12月に認証頂きましたJ-クレジットにつきましては、去る2月6日に東京に本社を置く三機工業株式会社様と連携協定を締結し、二酸化炭素量換算で年間2,000tの8年契約を結ぶことができました。

◆林業振興

町内産木材の利用を促すため、令和7年度から町産材利用促進事業の要件を緩和しており、更に利用促進を図ってまいります。

横田地域の幼稚園統合に併せた認定こども園の開園に伴い空き施設となる八川幼稚園は、豊かな子育て環境や幼児教育を提供するため、町内外の子どもや大人が木に親しみ理解を深めていただける「木育施設」として改修し、雨の日でも雪の日でも安心して過ごせる場所を提供してまいります。

◆山林地籍調査事業

令和8年度の調査事業は、継続6地区、新規1地区を計画しております。

このうち現地で境界確認を行う一筆地調査を2地区、新しい地籍調査手法である航空レーザ計測データを利用したリモートセンシング方式による筆地調査を1地区予定しておりますので、地権者の皆様のご協力をお願いいたします。

◆農業遺産ブランド振興

世界農業遺産認定を契機として、仁多米につきましては、関東方面への販路拡大を図るなどさらなる有利販売に取り組みでまいります。仁多米が全国の産地間競争に勝ち抜くため、安定した生産の確保と高品質化などによる更なるブランド化を軸とし消費者ニーズに対応した米生産となるよう、スマー